町民の声

# 町名の由来となった鏡沼伝説

鏡石町生涯学習文化協会長　小貫幸子

鏡石町生涯学習文化協会長
小貫幸子（おぬきゆきこ）さん

「議会だより」に町民の声を書かせてもらう機会をいただいて、どの方面の意見を述べようかと考えたところ、今、私たちが実践している、生涯学習協会自主事業「鏡沼伝説にふれよう」について書いてみようと思います。「鏡石町文化財指定一号、指定年月日、昭和44年12月5日、所在地、鏡田かげ沼町２２８」に今、記念碑と俳聖、松尾芭蕉と曽良の石像が有ります。伝説は、鎌倉時代、源頼朝の死後、北条政子とその実父時政の悪政に謀反した、和田平太胤長は、捕らえられて奥州岩瀬に配流され、死刑にされました。そのことを知らずに夫に会いたい一心から女ひとりで奥州への旅を決心した天留夫人がやっとの思いで鏡石の地にたどり着き、夫に会えるうれしさで身をつくろい化粧をすませた夫人に土地の人がもうすでに平太はこの世にはいないことを告げました。天留夫人は悲憤のどん底に泣きくずれ化粧なおしの鏡を胸に抱き夫の後を追って沼に身を投げてしまいました。沈んだ鏡はいつまでも沼の底で照り輝いていたと言われ、それから「鏡沼」と言われるようになりました。

この伝説は、今から８０６年前のことと白河風土記に記録されています。芭蕉が奥の細道で元禄二年にかげ沼の紀行文を残しています。鏡沼悲話から４７６年後のことです。

今年は、芭蕉の奥の細道３３０年に当たります。５月14日の民報新聞にも鏡沼の写真が大きく載り「行ってみっぺ鏡沼」のタイトルで鏡沼伝説が紹介されました。

私は、大変うれしく読みました。私たちは自主事業として平成27年から活動を始め、令和元年６月16日に第５回「鏡沼伝説にふれよう」を開催しました。前日からの雨が当日なんと晴れたのです。天からの贈り物だと思いました。鏡沼での奉納詩吟と鏡沼の漢詩の作者、安積良斎について、町文化財保護審議委員長の橋本さんから説明していただきました。集まってくれた町内外の方たちにも感謝いたします。西光寺に移動してのイベントにも約50名の人達が、昔話、詩吟、太極扇、書道等々を楽しんでくれました。鏡石町にすばらしい文化財と観光資源があることを町内はもちろん、町外にも発信し続けて、鏡石に訪れてくれる人が少しずつでも増えてくれることを願って、ボランティアで協力してくれる人達と「鏡沼伝説にふれよう」を開催し、町民との交流の場となる様に続けていきたいと思います。町を元気にすることは町民一人ひとりの努力が大切です。町の貴重な文化財にも関心を持っていただき、次の世代に伝えていくことが必要です。「温故知新」新しいことに向かう時にも、古きを識ることも大事だと思います。

「鏡沼伝説にふれよう」

西光寺での活動

## 編集後記

6月、第16回鏡石町議会定例会が開かれました。我々議員4年間の任期の最後の定例会で考えることの多い定例会でありました。

この4年、「開かれた議会」をめざし、議会改革に取り組んできましたが、まだまだ「改革」道半ばの状況です。その中で「広報広聴」の活性化で言うならば次回の議会からは広報委員会が常任委員会化される事になりました。このことは、町民参加、公正で透明な議会を考えると、多少進歩したかと思われます。新たな町議会議員が選ばれ、人が変わっても、今後も議会改革に取り組み、町民に信頼される議会となるよう努めなければならないと考えます。

**発行責任者**
議　長　渡辺　定己
**広報編集委員会**
委員長　小林　政次
副委員長　木原　秀男
委　員　古川　文雄
委　員　菊地　洋
委　員　長田　守弘
委　員　畑　幸一

かがやく

# 鏡石だより

## 眠れる森の美女

本年度の作品は、グリム童話からの出典。

目　次

第１６回定例会 …… ２ページ
議運所管事務調査 …… ３ページ
一般質問 …… ４・５ページ
審議の結果 …… ６・７ページ
町民の声 …… ８ページ

No.173
令和元年８月
発行　福島県鏡石町議会
編集　議会広報編集委員会
〒963-0202 福島県岩瀬郡鏡石町不時沼345
電話0248(62)2110
印刷　㈲ 永山印刷